

# 活動実績報告書

平成26年 4月14日

登録番号 20130952

氏名 渡辺 行直

## 1. 活動状況

平成23年 8月 ~ 平成26年 3月

### ・ 活動の概要

森林管理署の地域統括森林官として、関係する自治体、地元住民、林業事業体等との関わりの中で、森林の公益的機能の維持増進、森林・林業の再生に向けた国有林野・官行造林地の森林づくりに取り組んだ。中でも、管轄の官行造林地は大面積であり、かつ、伐期が到来していることから、単に契約相手方との間の話ではなく、地域に大きな影響を与える森林づくりに関わる業務として取り組んだ。

当該官行造林地は300haもの団地であり、地上立木を伐採したあと、土地所有者に返地することになる。主伐して返地することで官行造林契約は終了するが、官行造林地が所在する町は、将来300haもの民有林が増えることになり、その取扱いは、町全体の将来ビジョンや市町村森林整備計画にも影響するものと考えられ、地域のニーズを踏まえた森づくりを実施していく必要がある。

地域統括森林官は、森林事務所管轄の国有林野等の管理等の外、複数森林事務所又は森林管理署全域にまたがる地元市町村、地域住民との意見交換や合意形成等に対応する立場にある。この中で、当該官行造林地の伐採計画、路網計画案の作成、立木調査等の外、地元関係者への説明、意見交換、調整を行っている。

### ・ 活動上発生した問題点と課題及びそれへの具体的対応策

○路網の整備不足：一部官行造林地内には舗装された林道が通過している箇所もあるが、法切りが高く林業活動に使用しづらい道となっている。このため、平成24年度に作業道を1,000m開設。

○伐採計画の考え方：当該官行造林地は、自然景観や山地災害の防止に配慮した伐採計画とする必要があり、伐区の検討も含め当面の造林事業の検討と将来的なビジョンを併せて検討した。

○官行造林地返地後の再造林：土地所有者の再造林への意欲が希薄である。

スギ・ヒノキの人工林であるため、森林景観の維持、山地災害の防止、水源のかん養機能等の多面的機能の持続的な発揮のためにも、全てを天然更新にすることは適切ではなく、再造林の必要があること等、再造林の必要性についての関係者の理解と意欲の醸成を図った。

### ・ 活動による成果で残された課題及び今後の改善方策

○路網の整備不足：道が無ければ、伐採・搬出も再造林もできない。関係者と林業専用道等の開設について検討・協議を行い、林業専用道及び作業道の開設の方策を探る。

○官行造林地返地後の再造林：再造林の必要性についての理解はしていただいているが、意欲の醸成までには至っていない。低コスト造林の技術提供等により、再造林の意欲の醸成を図る。

## 2. 研修の受講状況

研修名 准フォレスター研修Ⅰ 平成24年 7月  
(実施主体) 林業人材育成支援普及センター

研修名 准フォレスター研修Ⅱ 平成24年10月  
(実施主体) 林業人材育成支援普及センター

研修名 \_\_\_\_\_ 平成 年 月  
(実施主体)

## 3. その他の自己の能力・維持向上のための活動状況

- ・ シカ被害対策検討会への参加(九州森林管理局)
- ・ 森林作業道現地検討会への参加(県)

注2:2. 研修の受講状況、及び3. その他の自己の能力・維持向上のための活動状況については、直近の過去5年間に取り組んだ具体的な内容と時期を記載してください。

注3:活動実績報告書は、A4で全2枚としてください。

注4:この活動実績報告書は、このままPDF化して林野庁ホームページに掲載しますので、見やすさ読みやすさ、個人の特定等、公開に差し障りのある表現にもご配慮ください。